

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	新型コロナウイルス影響下での育児支援事業
資金分配団体名:	公益財団法人 信頼資本財団
実行団体名:	特定非営利活動法人 和歌山子どもの虐待防止協会（WSPCAN）
実施時期:	2021年5月～2022年3月
事業対象地域:	和歌山県
事業対象者:	一般養育者養育者（児童相談所、児童養護施設職員等を含む）

Version 3.2

日付: 2022年3月31日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）は、生命の脅威、健康被害、世界の経済に大きな影響をもたらし、日常生活での多大な制限をもたらした。COVID-19ため、外出制限などで子ども、養育者の家庭内ストレスの増加によって、児童虐待の増加リスクの上昇が指摘されている。児童虐待の予防として、いくつかの子育てプログラムの有用性が報告されているが、対面による子育てプログラムの提供は、COVID-19感染リスクをもたらすため、本事業では、従来から我々が取り組んでいる前向き子育てプログラム（トリプルP）をオンラインで提供することでCOVID-19を回避できることをねらいとした。</p> <p>トリプルPは、オーストラリアで開発されたプログラムで、親のニーズにより5段階のプログラムが用意されているが、本事業では「子どもの広範囲、複数の比較的深刻な問題行動を扱う」レベル4に相当するプログラムを選択した。養育者はオンライン配信を通じてPC、タブレット、スマートフォンなどで、個別に養育者の好む時間に、どこに住んでいるかに関係なく、プログラムに参加が可能となる（以下トリプルPオンライン）。トリプルPオンラインは、英語によるプログラムであるため、翻訳ののち、プログラム提供環境を整備し、できるだけ多くの養育者に提供できることを目標とした。トリプルPオンラインは、わが国において初めて導入されプログラムであることから、その有用性を評価し、継続可能なプログラムとして社会実装を目指した。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>以下の過程について、振り返りを行った。</p> <ol style="list-style-type: none">翻訳作業、オンライン配信の整備：当初10月31日の完成を目指し、トリプルPインターナショナルに翻訳、プログラム配信管理を依頼した結果11月5日からプログラム提供が可能となった。和歌山子どもの虐待防止協会（WSPCAN）にて、プログラム内容を確認したのち11月18日から養育者に配信を開始した。プログラムの実施と遂行：プログラム配信（令和4年1月5日の時点）2歳から12歳の子どもを持つ養育者、及び児童相談所・児童養護施設の職員の総計、244名の応募があり事前アンケートに協力した197名のうち、180名の参加登録を行った。プログラムは8モジュールがあり、1モジュール1週を目標にプログラム遂行を依頼した。プログラム評価・分析：直前の調査票は197名すべて回収済みある。180名の参加登録者にプログラム直前、プログラム終了直後、プログラム終了6週間後の3回アンケート調査を依頼をした。令和4年2月21日の時点で8モジュール終了者56名で、4～7モジュール35名、1～3モジュール89名であった。3月1日の時点でアンケートを回収できたプログラム直後終了者47名、6週間後20名のプログラム評価・分析を行った。令和4年度もプログラムをできるだけ多くの養育者（トリプルPインターナショナルとのLOAにて1750名の提供が可能）へのプログラム提供のため、和歌山子どもの虐待防止協会のホームページからリンク可能な、ホームページの作成を業者に委託し、次年度当初からプログラム提供の準備がほぼ整った。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦結果と考察
子ども・学生	外出困難	養育者へ子育てスキルの向上と心理面の改善を介して、2歳～12歳の子どもとその養育者の良好な関係の構築。	養育者のプログラム満足度、子育てスタイル（手ぬるさ、過剰反応、多弁さ）、心理状態（うつ、不安、ストレス）。子育ての自信等。子どもの行動（長所・短所）。	養育者150名の調査	中間支援者を含み244名の募集があり、197名の養育者（中間支援者34名を含む）にプログラムを提供した。和歌山県30市町中、14市町から参加があった。女175名、男22名）参加者平均年齢39歳子ども平均年齢6.3歳	3月1日でプログラム終了56名のうち47名、6週間後20名を解析した。47名の結果では、子育てスタイル、養育者の心理状態が改善し、子育ての自信の高まりが確認され、プログラム受講満足度も高い結果となった。20名では、プログラム終了6週間後も、プログラム直後の効果が持続していることが確認され、プログラム実施により、子どもの行動（短所）の改善が確認された。（3月1日結果グラフ付き参照）
中間支援者	学習機会の不足/格差	児童相談所、児童養護施設職員等の子育てスキルの向上。	職員のプログラム満足度、子育てスタイル、子育ての自信等。子どもの行動。	職員50名の調査	児童相談所職員（一時保護施設を含む）、児童養護施設職員、ほか子育て関係部署職員の計34名。	養育者、施設職員合わせての解析であるが、ともに子育てに伴う不安、ストレスの軽減が得られ、子どもの問題行動の予防も期待できるものであった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	できるだけ多くの子どもの養育者にプログラムを提供する：和歌山県下500名+全国1250名の計1750名を目標とする。
考察等	できるだけ多くの養育者にプログラムを提供するという目標でプログラムの周知には他団体との連携が必要不可欠であった。未就園児、就園児、就学児等、細分化し広報リストを作成、啓蒙活動の実施を行った。このプログラムを届けたい層にアプローチをするために、今まであまり活用していなかったメディアの活用、SNS発信等を実行し反応をみた。全国展開に向け、トリプルPオンラインがよくわかるランディングページを作成し、引き続き動く情報発信も必要であると感じている。全プログラム（8モジュール）未完了者へのフォローについては現行のプログラム管理システムでは1年間アクセス可能であるため、引き続き受講継続を依頼する予定である。

V. 活動

活動	進捗	概要
プログラム翻訳（ビデオを含む）	ほぼ計画通り	トリプルPオンラインの8モジュールの翻訳、および挿入ビデオ日本語吹き込み
プログラムアクセスWebの整備	ほぼ計画通り	トリプルPオンライン管理システム
プログラム参加者の募集の広報	ほぼ計画通り	案内ちらし、ホームページ掲載、新聞での掲載
プログラム参加者の確定	ほぼ計画通り	約250名の応募
プログラムの遂行(完了について)	ほぼ計画通り	197名（女175名、男22名）にプログラム提供し、180名がプログラムを開始（うち施設職員34名）
プログラム評価	ほぼ計画通り	直前アンケート197名を回収。2月21日プログラム修了者56名で、3月1日に有効アンケート直後47名、6週間後20名を解析した。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>当プログラムは2歳～12歳の子どもの養育者であるが、0～1歳児の保護者からの申込みもあり関心の広さを知ることができた。</p> <p>オンラインでのプログラム受講は自宅で各個人が好きな時間に学べるメリットがある反面、このプログラムは5段階中レベル4という難しい内容ということもあり、難しさから一度止まると次へ進めない受講者もいるので定期的にお伺いの連絡をいれる必要性を感じた。また問い合わせのほとんどがITスキルが十分でない受講者への対応だったことから、マニュアルの作成を考慮したい。</p> <p>本事業終了後に、プログラム評価目標の200名に加え、トリプルPオンラインを無料で1750名に提供する目途がたった。</p> <p>トリプルPオンラインの全国展開のため、情報にアクセスできるようにウェブサイト・ブログを助成期間内（2021年度内）に作成した。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>全プログラム（8モジュール）未完了者へのフォローについて：現行のプログラム管理システムでは1年間アクセス可能であるため、引き続き継続を依頼する予定である。コロナの長期化により家庭の外へ出られない親子の数は増加傾向にある。オンライン化の需要が高まりサービスも増加する一方で家庭内だけの共通話題にするのではなく、それを語りあえるコミュニティ、場が必要であると考えている。そのためには、時期をみてトリプルPファシリテーターを交えながら少人数制でのリアルのお話会や交流会を儲ける必要があると考えている。前向きに子育てができる養育者の数を増やし、その親にトリプルPプログラムをまた広げてもらうことによって一人でも多くの子育てに困難を抱える養育者へと伝えていきたい。</p> <p>なお、令和4年度に実施する和歌山500名+全国1250名の管理についての予算維持、およびプログラム評価をどうするかを検討が必要である。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
トリプルPインターナショナル	プログラム翻訳（挿入ビデオ作成を含む）、プログラム管理システムの構築
トリプルPジャパン	プログラムの全国展開の協力
和歌山県	プログラム参加者募集案内チラシへの後援記載
NPO法人ホッピング	子育て広場でのお話会・説明会の開催、募集チラシの配布

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	13,664,000	13,660,759	100.0%
	管理的経費	1,336,000	1,340,091	100.3%
合計		15,000,000	15,000,850	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<p>【情報発信】</p> <p>和歌山子どもの虐待防止協会HP http://wspsan.jp/ Instagram https://www.instagram.com/wspsan_waco/</p> <p>【啓蒙活動】</p> <p>WBS和歌山放送ラジオ（11月9日(火)つながるワイド わんだーらんの全開(火曜日)）に出演 http://tsunagaru.sblo.jp/article/189123900.html 紀伊民報(10月28日(木)朝刊・夕刊)https://www.agara.co.jp/article/157548(URL有料記事) わかやま新報(11月17日(水)朝刊・夕刊)https://www.wakayamashimpo.co.jp/2021/11/20211117_105366.html 朝日新聞(11月26日(金)朝刊・夕刊)(URL有料記事) リビング和歌山 11月6日(木) http://www.living-web.net/ebooks/ebook211106/?pNo=6 10月30日(木) http://www.living-web.net/ebooks/ebook2111030/?pNo=4</p>
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	<p>トリプルPオンライン参加の案内チラシ（9400枚作成配布）</p> <p>トリプルP概要パンフレット（オンラインだけでなく）</p> <p>トリプルPオンラインのWebランディングページ</p> <p>トリプルPオンライン教材(ヒントシート、記入ノート)</p>
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	トリプルPオンライン参加の案内チラシに休眠預金活動事業のロゴを挿入
4.報告書等	なし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。		
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。		

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	総会、セミナー（シンポジウム）、例会が順調に開催された。
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	団体の監事による監査を実施し、監査報告書の提出を受ける。
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	

XII. その他

自由記述
特になし